

被災者勇気づける走りを 全国高校駅伝 光星男子 意気込み

熊谷市長（前列左から4人目）に全国高校駅伝での健闘を誓った八学光星の男子メンバーら



21日に京都市で開かれる全国高校駅伝競走大会に10年ぶり2回目の出場を決めた八学学院光星陸上競走部の男子メンバーが11日、八戸市庁を訪れ、熊谷雄一市長に都大路での健闘を誓った。

同校は10月の県高校駅伝で、青森山田に次いで2位。11月の東北大会では2時間7分22秒で4位となり、各県優勝校を除いた最上位校に与えられる東北地区代表の座をつかんだ。

市庁を訪問したのは、昨年度まで同部監督を務めた赤間俊勝教頭、就任1年目の上田義貴監督、河合陽向（ひなた）主将（3年）ら部員13人。上田監督は、起伏のある種差海岸やYSアリーナ八戸のランニングコースで走り込んだ成果が全国につながったと強調。河合主将は「地震被害に遭われた方々を少しでも勇気づけられるように頑張りたい」と意気込みを語った。

熊谷市長は「実力を存分に発揮し、上位を目指して」と激励した。

大会は男子が7区間42・195⁺、女子が5区間21・0975⁺のコースで行う。女子は青森山田が出場する。

（千葉真由美）